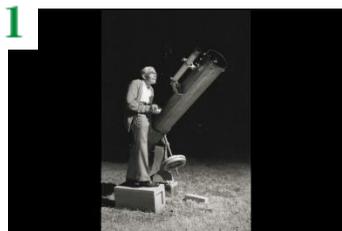




冥王星発見ものがたりおじいちゃんの望遠鏡

2006年IAU総会において、冥王星は惑星から除外されることが決定しました。冥王星を発見したクライド・トンポーを偲びながら、孫のキャサリンとその幼なじみフランクは、久しぶりに天体観測をしようと約束をします。フランクを待ちながら、キャサリンは優しくおじいちゃんとの楽しい日々を想い出すのでした。トンポーおじいちゃんが愛したもの、大切にしたものとは何だったのでしょうか……トンポーが回想する冥王星発見のものがたりとともに語られます。

投影時間 25分 対象 小学校中学年～一般
登場人物 クライド・トンポー、孫のキャサリン、フランク
素材 スライド/100枚 VTR/11分



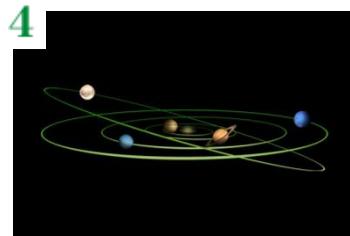
1 ちょうど20年前。キャサリンは仲良しのフランクを誘って、トンポーおじいちゃんの天体観測を手伝ったものでした。おじいちゃんが好きだった夜空を見上げていたキャサリンは、この当時に星座を教えてもらったことを想い出します。



2 あまり、昔話をしないおじいちゃんでしたが、ある時、天文学者になったきっかけを話してくれたことがありました。トンポーは「子どもの頃貧しかったので、自作の望遠鏡で天体観測をしていた」と話し始めます。



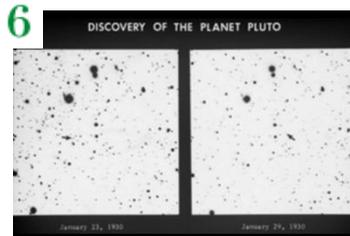
3 トンポーはその天体観測記録をローウェル天文台長に送ったところ、正確さが認められ、この天文台の助手となりました。1929年トンポー 23歳のことでした。そして、太陽系第9番惑星搜索のプロジェクトに抜擢されるのです。



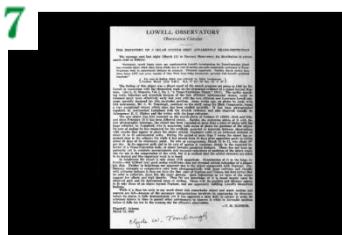
4 太陽系第9惑星搜索のきっかけは、天王星の軌道の乱れが、その外惑星に影響されていると考えられたからでした。海王星が発見されても説明がつかなかったことから、第9惑星の存在が予想され、その当時、ローウェルが最も熱心に取り組みました。



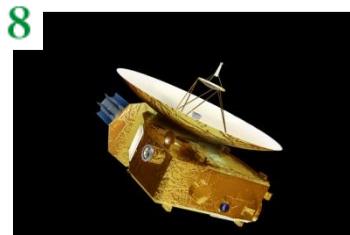
5 ローウェルの死後は、天文台長がその意志を引き継ぎ、やがて、助手となったトンポーが担当することになったのです。広角写真望遠鏡で撮影し、それをプリンク・コンパレーターにかけて、惑星を搜索する日々が続きました。



6 惑星探しは、本当に発見できるとは誰も思わないほど困難でしたが、ついに、トンポーは発見するのです。「小惑星なんかじゃないぞ。1週間でも3～4mmしか動いていない。遠くにある星だ！」と思った瞬間、電気が走ったようだった」



7 精密測定にも成功し確証を得たことで、第9惑星発見は正式に発表されました。1930年3月13日。それはローウェルの75回目の誕生日で、149年前に天王星が発見された日でした。その後もトンポーは天文の研究を続けました。



8 トンポーは1997年91歳の誕生日を目前にして、天に召されました。その9年後、生誕100年にあたる2006年1月19日。冥王星探査機「ニュー・ホライズンズ」が打ち上げられます。これにはトンポーの遺灰が搭載されているのです。



9 2006年のIAU総会で、冥王星は惑星から除外されることが決定。それを受けてトンポーの妻は語ります。「夫は優れた科学者ですから、どのような決定も受け入れるでしょう」それは、キャサリンもフランクも同じ想いなのでした。



10 キャサリンとフランクに、トンポーおじいちゃんの声が聞こえてきます。「惑星・準惑星は、人間が便宜上考えた分類にしか過ぎん。今夜も冥王星は輝いているだろう。偉大な宇宙には我々が想いもおよばぬことがたくさんあるのだからね…」と。